

労災だより

2018 - Sept

No. 09

手術した方がよい骨折と手術しなくてもよい骨折

運動器外傷センター長 小林 誠

みなさん、こんにちは。平成 30 年 7 月より、横浜労災病院運動器外傷センター長として着任いたしました 小林 誠 と申します。平成元年に医師となり、平成 14 年から帝京大学病院で 16 年間にわたって骨折の診療に携わって参りました。横浜労災病院運動器外傷センターは平成 26 年 4 月に開設され、これまでは手・末梢神経外科部長の山本 真一先生がセンター長を兼任しておりました。

帝京大学で扱っていた骨折は命に関わる多発骨折が多かったのですが、横浜労災病院では近隣のクリニックからご紹介いただく身近な骨折が多い印象を受けております。



そこで、「ある骨折に手術が必要であるかどうかを決める時の考え方」をご紹介します。

1. 手術をしなくても骨がつくか？

転位のある大腿骨頸部骨折（図 1）は、そのままでは骨がつかない骨折の代表ですので、もともと歩けていた方では手術をするのが普通です。普通は骨がつかないと何らかの不具合が起きるものですが、鎖骨骨折は例外です。



鎖骨骨折の偽関節（図 2）は、肩の拘縮さえなければ無症状であることがほとんどです。骨幹端・骨端の骨折は海綿骨主体なので癒合しやすく、骨幹部の短斜骨折・横骨折は癒合しにくいことで知られています。一般に転位が大きいほど骨癒合しにくいのは確かですが、個々の骨折が癒合しそうかどうかを判断するのに役に立つ書物はなく、ベテランの先生の expert opinions に優るものはありません。

図 1 転位のある大腿骨頸部骨折

骨折部に骨膜がないので手術しないと癒合しない。



図 2 鎖骨の偽関節

骨がついていないからと肩を使わせないと、かえって肩の拘縮を起こして痛みが残る。受傷後早期から痛みの許す範囲で肩を使わせた方がよい。

2. そのままの形で骨がついても困らないか？

下肢骨では、ある程度以上の内反変形が残ると膝や足関節に負荷がかかって、**将来関節症を発生するリスクが高まります**。**上肢骨**は、荷重肢ではないので骨幹部・骨幹端部の変形癒合が**関節症発生のリスクにつながることは少ない**です。**関節内骨折**では、「関節面に 3 ミリの段差があったら手術した方がよい」などとあちこちに書いてありますが、3 ミリの段差を整復する技術を医師が持っているかどうかの問題です。**容認できない変形があれば徒手整復を行い、整復位が外固定で保てれば外固定、保てなければ内固定、というのが原則**ですが、昨今は**ギプスのモーリング**という技術が絶滅しつつあります。

橈骨遠位端骨折を折角よい形に整復しておきながら、モールドのない土管のようなギプス（図 3）を巻いて再転位し、「はい、手術」という症例をたくさん見てきました。非手術治療を若手に指導するのは面倒であるため、「何でもかんでも手術」という風潮にあるのは嘆かわしいことです。



図 3 橈骨遠位端骨折

左：受傷時。遠位骨片が背側転位している。
中：整復後にモールドのない土管のようなギプスが巻いてある。白丸のところで骨とギプスの距離が大きいため再転位するリスクが大きい。
右：モールドのあるギプス。白丸のところで骨とギプスの距離が短いので再転位のリスクが小さい。

3. 骨がつくまで待てるか？

転位の小さい成人脛骨骨折なら、**ギプスと PTB 装具を 2 ヶ月程度装着することで治す**ことができます。昔はギプスや松葉杖を何週間も使えない理由がある場合のみ手術をしていましたが、今では**何でもかんでも髓内釘固定をする**風潮です。

入院・手術は我々医療者にとっては当たり前のことですが、患者さんにとっては一大事です。「**やみくもに手術をするのではなく、本当に必要な場合のみに手術をする**」という方針でやって参ります。

当院整形外科（脊椎脊髄外科、手・末梢神経外科、人工関節外科を含む）・運動器外傷センターでは、医療機関からの急を要する紹介を救急外来以外に横浜労災病院整形外科医 24H ダイレクトコール（070-6528-1257）でも受け付けています。外傷・強い痛み・感染・麻痺などで急を要する場合や骨折の治療で迷われた場合には、どうぞ遠慮なくご連絡下さい。迅速に対応させていただきます。

***** 【「第21回 登録医の会」を開催いたしました。】 *****

平成30年7月24日（火）「第21回 横浜労災病院登録医の会」を開催いたしました。

本会は、日頃、大変お世話になっております登録医の先生方への情報提供並びに当院勤務医との情報交換を行うことで、先生方との連携をより一層深めていくことを目的としております。



【講演プログラム】

①脳神経血管内治療科の現状と最近の話題

（脳神経血管内治療科 戸村 九月）

②当院の診療トピック

「頭頸部がん診療の実際」（耳鼻咽喉科部長 塩野 理）

「小児の食物アレルギー」（小児科副部長 小笹 浩二）

「呼吸器内科の最近の取組」（呼吸器内科部長 伊藤 優）

「小児形成外科のご案内」（形成外科部長 山本 康）

「メンタルろうさい」の活用」（勤労者メンタルヘルスセンター長

山本 晴義）



多くの先生方のご参加を頂き、誠にありがとうございました。

（地域医療連携室）

当院へのご紹介方法について

◎ 地域医療機関からの診療予約

登録医療機関（地域医療連携室）

登録医予約専用電話 ☎ **045-474-8362**（平日 8:15～19:00）

☎ **045-474-8344**

登録医療機関でない場合（予約センター）

☎ **045-474-8882**（平日 8:15～17:00）

◎ 緊急で受診が必要な場合（地域医療機関から）

診療科が明らかな場合

① 診療科医師に直接相談する場合

☎ **045-474-8111**（病院代表）へ連絡し、交換手に

「救急患者紹介のため、〇〇科の本日の担当医につないで欲しい」とお話下さい。

② 地域医療連携室を経由する場合

☎ **045-474-8345**（直通）

診療科が不明な場合

☎ **045-474-8111**（病院代表）へ連絡し、交換手に

「救急外来につないで欲しい」とお話し下さい。